

# 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の全国レベルでの普及を目的とした実践研究に基づく教材開発

児玉桂子<sup>1)</sup>・古賀誉章<sup>2)</sup>・沼田恭子<sup>3)</sup>  
下垣光<sup>4)</sup>・大島千帆<sup>5)</sup>

- 1) 日本社会事業大学大学院・特任教授
- 2) 東京大学大学院工学系研究科・助教
- 3) 沼田恭子建築設計事務所
- 4) 日本社会事業大学社会福祉学部・准教授
- 5) 早稲田大学人間科学部・助教

## Teaching material development for creating institutional environments for elderly people with dementia based on the results of practical intervention research

Keiko Kodama・Takaaki Koga・Kyoko Numata  
Hikaru Shimogaki・Chiho Ohshima

**Abstract:** At institutions where practical intervention research had been conducted using a support program for creating institutional environments with consideration for elderly people with dementia, we evaluated changes in the degree of satisfaction with the environment, levels of stress and behavior among elderly people before and after the creation of the environment, and demonstrated the effectiveness of the program. Based on the results of practical intervention research, we developed a practical manual for creating institutional environments in the forms of a book and Japanese and English CDs. Using the manual as teaching material, we conducted training and education programs for practicing staff and undergraduate and graduate students, and evaluated their effectiveness. Lastly, we presented a model of the wide range of effects of the environment creation support program on staff and elderly people, as well as a model of the diffusion of training and practice using the program.

**Keywords:** Dementia care environment; institutional environment creation; support program; training; practical intervention research ; teaching material development.

「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」を用いて介入実践研究を実施した施設において、環境づくり前後の環境満足度やストレスおよび高齢者の行動の変化を評価して、このプログラムの有効性を明らかにした。この介入研究の成果を踏まえて、施設環境づくり実践マニュアル(書籍および日本語版・英語版 CD)を開発した。これを教材として、現場向けおよび学部・大学院向け研修・教育プログラムを実施して、その有効性を評価した。

最後に、環境づくり支援プログラムが職員や高齢者に及ぼす幅広い効果モデル、および環境づくり支援プログラムによる研修や実践の普及モデルを示した。

**キーワード：** 認知症ケア環境、施設環境づくり支援プログラム、施設環境づくり研修、施設環境づくり介入実践研究、教材開発

## I. 本研究の目的

### (1) 研究の経過

「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム（以下施設環境づくり支援プログラムと省略）」は6ステップから構成され、実践者の思考やコミュニケーションを助ける多くのツールが準備されてきた。前年度の研究では、全国レベルでの普及を目的として、施設環境づくり支援ツール、研修プログラム、ウェブサイト、環境づくり支援専門家の養成等の充実を図り、多くの人々が「施設環境づくり支援プログラム」にアクセスしやすい体制を構築した。その結果、熊本、愛知、長野、東京、台湾等の地域で、精度の高い施設環境づくりの研修や実践が行われた。

### (2) 本年度の研究目的

6ステップの施設環境づくり支援プログラムが実践され、認知症高齢者のケアや暮らしに反映するには1年から1年半位の期間が必要である。本年度の研究の第一の目的として、前年度から介入実践研究を行ってきた施設において、環境づくり前後に評価を実施して、プログラムの有効性の検討を行う。

この介入実践研究の評価を踏まえて、環境づくり実践マニュアルの改訂を図り、専門家の支援がない場合でも、誰でもが環境づくりに取り組むことのできる実践マニュアルの開発を行う。実践マニュアルは、環境をビジュアルに伝えられるようにCD版も作成する。また、東南アジアの国からの関心も高いので英語版も用意する。

これらの教材を活用して、専門家向け研修プログラムや大学・大学院向け教育プログラムを開発して、その効果の評価を行う。

## II. 本研究の成果

### 1. 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」に基づく施設環境づくりの実施と効果の評価

#### (1) 「施設環境づくり支援プログラム」による介入実践研究の概要

東京、熊本、台湾の3地域で、「施設環境づくり支援プログラム」による介入実践研究が実施された（表1）<sup>4)</sup>。

##### ① 東京プロジェクト

東京プロジェクトは、同一法人のA～D特別養護老人ホームにおいて、2009年（第1期）

よりスタートして2011年現在も第3期が継続中である。施設環境づくりは、法人全体の認知症ケア向上の取り組みの一環に位置づけられている。各施設は第1～2期には、環境づくり専門家組織から月1回の定例会議を通じた積極的な支援を受け、第3期には各施設が自立して取り組めるような自立移行支援を受けている。当初は、環境づくりコアメンバーが中心となり、実践を行ってきたが、第3期には各フロアや入浴等各種委員会が中心に環境づくりを活かしたケアの向上に取り組むように、施設内に広く普及しつつある。

環境づくりは1施設10万円の予算で職員の工夫により進められたが、C特養では環境づくり前に食堂の改修が実施された。また、D特養では施設全体の大規模改修が実施されたため、他施設と異なるペースで取り組まれた。第1期の取り組みでは、課題が多い食堂やトイレ等の環境づくりが行われたが、第2期以降には個々の認知症高齢者のアセスメントと合わせた居室の改善や入浴環境と入浴ケアの改善がセットで実施された。東京プロジェクトでは、環境づくりを活かした個別ケアをゴールとした実践がなされている<sup>2)</sup>。

## ② 熊本プロジェクト

2009年に実施した熊本研修を契機に九州環境づくりグループが結成され、研修を受けたなかから、3施設で環境づくり実践研究が進行している。E特養は、老朽化した施設に替わるユニット型の施設を建設中である。旧施設に約100万円を投じて改修を行い、環境づくり支援プログラムを適用した環境づくりに取り組み、ユニットケアへのケアと運営方法のシミュレーションに取り組んだ。この環境づくりの取り組みと利用者への効果に関する研究に対して、熊本県施設研究発表会で銀賞を得た。

F小規模多機能施設とGグループホームでは、民家を活用した、個々の高齢者のニーズに寄り添い、かつ地域の文化を取り入れた環境づくりが進められている。

## ③ 台湾プロジェクト

2009年に実施した台湾での研修会が発展して、台湾国立雲林科技大学の曾思瑜教授を中心に、台湾南部に位置する嘉義市の二つのナーシングホームで環境づくりが進行している<sup>5)</sup>。中国語に翻訳した日本と同様のプログラムを活用して、職員は高齢者の視点に立つことを学び、共用スペースの家具配置、壁の装飾、植栽などの工夫に取り組んでいる。しかしまだ、物を変えるレベルに留まっており、環境づくりを通じてケアの改善には至っていない。この台湾の取り組みも、中華民国建築学会賞を受賞した。

## (2) 施設環境づくり支援プログラムによる環境づくりの効果の評価

### ① 施設環境づくりの効果測定の指標

施設環境づくり支援プログラムの「ステップ6：環境づくりを振り返る」では、現場職員による環境づくり実践の振り返りと専門家による環境づくりの効果の検証に分けて、様々な評価指標や評価シートを提示している。

前項で述べた環境づくりプロジェクトにおいて、専門家により環境づくり前後に「多面的施設環境評価尺度」や「RHRFストレスチェックリスト」等が実施された<sup>7) 8)</sup>。また、現場職員により環境づくり後に「環境づくり振り返りシート」や「高齢者の行動チェックリスト」が実施され、環境づくりの成果や認知症高齢者への影響の把握が行われた。

表1 施設環境づくり支援プログラムによる介入実践研究の概要

		施設概要 定員・開設年	環境づくり 取り組み期間	環境づくりの内容	効果測定の指標
東京 プロ ジ ェ ク ト	A 特養	120名 1999年	1期：2009 2期：2010 3期：2011 継続中	1期：食堂にソファ、面会スペースの整備、廊下に居場所、使いやすい洗面等 2期：センター方式を活用した居室の整備、浴室整備、ベランダでの園芸。家族や高齢者の参加。今後、社会とつながりを検討。	・多面的施設環境評価尺度 ・ストレスチェックリスト ・高齢者の行動観察チェック表 ・環境づくり振り返りシート
	B 特養	70名 1993年	1期：2009 2期：2010 3期：2011 継続中	1期：トイレ入り口カーテン、リビングスペースに家庭用品、電子錠の解放の試み等。 2期：再度プログラムに沿って多くの取り組み実施。環境づくり通信を発行。今後、認知症フロアでは、職員の声を取り上げた環境づくり。2階も談話コーナー整備	・多面的施設環境評価尺度 ・ストレスチェックリスト ・高齢者の行動観察チェック表 ・環境づくり振り返りシート
	C 特養	50名 1994年 2009年 食堂改修	1期：2009 2期：2010 3期：2011 継続中	1期：食堂スペースの活用、廊下奥のスペース活用、整容コーナー、掲示物の整理等 2期：施設全体に広がり、入浴等委員会が環境とケアの改善に取り組む。今後、センター方式を活用してケアプランに反映して個別ケアの充実	・多面的施設環境評価尺度 ・ストレスチェックリスト ・高齢者の行動観察チェック表 ・環境づくり振り返りシート
	D 特養	108名 1989年 2010年 施設全体改修	1期：2009 2期：2010 3期：2011 継続中	1期：ベランダに緑のカーテンと野菜、廊下にくいすとふわふわクッション等 2期：2・3階で、談話室、廊下、居室入り口の整備。入浴等の委員会へも広がる。	・大規模改修のため、環境づくり振り返りシートのみ
熊本 プロ ジ ェ ク ト	E 特養	120名 1974年 老朽化により新特養建設中。	2009に環境づくり研修参加。 2010年より継続中	3棟において、廊下、パブリックスペース、食堂の改修を約100万円かけて実施。従来型環境とケアを、新ユニットに対応させるための、職員研修と位置づける。さらに地域の文化を反映した環境づくりを実施。	・環境づくり振り返りシート ・NMスケール ・DBDSスケール 熊本県施設研究発表会で銀賞受賞
	F 小規模多機能	登録25名	2009に環境づくり研修参加。 2010年より継続中	古民家を活かした環境。居間の過ごし方を検討。地域の文化を反映した、個々の利用者に対応した環境づくりを開発中。	
	G グループホーム	9名	2009に環境づくり研修参加。 2010年より継続中	民家改修型。重度化した入居者の居室の検討。地域の文化を反映した、個々の利用者に対応した環境づくりを開発中。	
台湾 プロ ジ ェ ク ト	H ナーシングホーム	90名 1999年 2011年 新施設移転	2009研修会開始、継続中	現在の施設は精神病院を改修した古い建物。面会室の小改修。リハビリ室の壁の色。ベランダを居心地良く。廊下等に植栽で潤い。鶏小屋を造る。各フロアの天井や壁をケアスタッフの手作りの装飾。	・多面的施設環境評価尺度 ・建築面から環境評価を実施  中華民国建築学会賞を受賞
	I ナーシングホーム	201名 2000年	2010年研修会開始、継続中	すでに各廊下に地域の暮らしを描いた壁画がある。各階のパブリックスペースの壁に果物などの装飾。家具の配置の検討。	・多面的施設環境評価尺度等による評価を予定する

②多面的施設環境評価尺度等による施設環境づくりの評価

環境づくりの第1期に環境づくりプログラムの確実な実施に取り組んだC特養を取り上げて、多面的施設環境評価尺度等を用いた環境評価の一端を取り上げる。多面的施設環境評価尺

度は、施設の物理的・ケア的・運営的環境への満足度をとらえる 76 項目から構成され、生活の継続性等の 12 次元に集約される。環境づくり前後に同じ職員が回答を行った。

「建物・設備の次元」の各項目に対して満足と回答した職員の割合は、掲示物の見やすさや内装のしつらえの調和等の項目で満足が向上した（図 1）。単なる物理的な面のみでなく、「生活の継続性の次元」に関しても気軽に集まれる場所やくつろぎやすさ等について、満足が増加した（図 2）。「職員のモチベーションの次元」に関して、C 特養では環境づくり前から高い満足度であったが、環境づくり後にチームワークの良さ等への満足度が増加した。また、管理職が職員の要望に対して理解を示すようになり、管理職も環境づくりで変わったことが示された（図 3）。以上のように、76 項目中環境づくり後に 55 項目で満足の増加がみられ、幅広い効果が認められた。

図 4 は、環境づくり実施フロアに暮らす入居者 18 名（要介護 4 と 5 の割合が 6 割強）につ

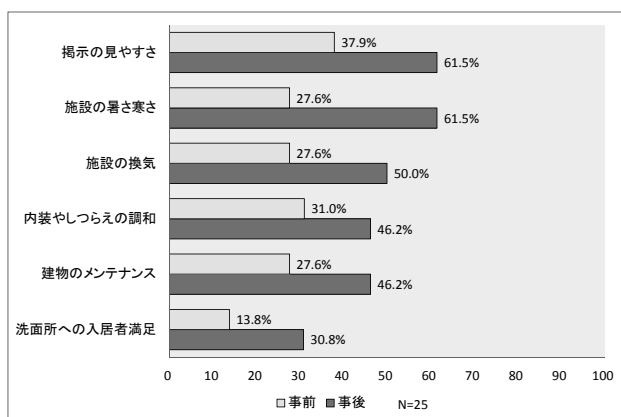


図 1 多面的施設環境評価尺度による環境づくり前後の評価（1）  
建物・設備の次元への満足（全 24 項目から抜粋）

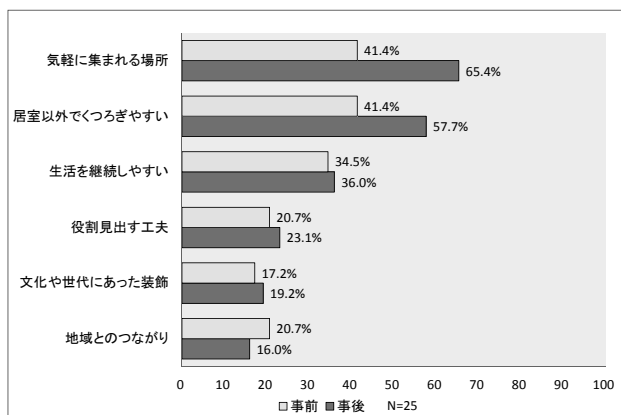


図 2 多面的施設環境評価尺度による環境づくり前後の評価（2）  
生活の継続性の次元への満足

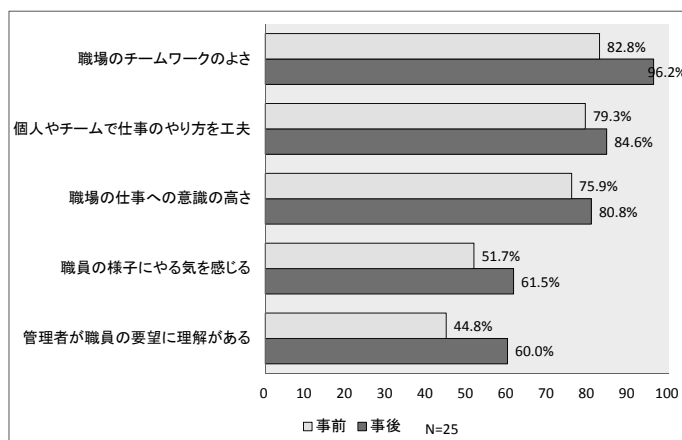


図3 多面的施設環境評価尺度による環境づくり前後の評価（3）  
職員のモチベーションの次元への満足

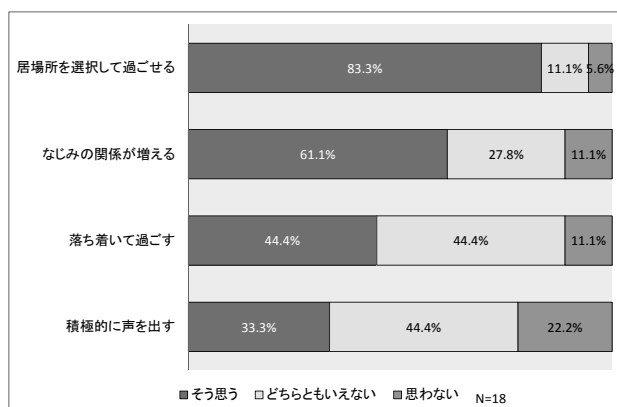


図4 「環境づくりの効果に関する調査表」による入居者の行動変化

いて、環境づくり後の行動の変化を職員が観察によりとらえた。10項目のうち4項目で環境づくりの影響が顕著にみられ、とくに「居場所を選択して過ごせるようになった」や「なじみの関係が増えた」という項目で大きな変化がみられた<sup>8)</sup>。

## 2. 施設環境づくり実践研究成果に基づく教材開発

### (1) PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル（書籍版）

これまで施設環境づくり研修や実践には、「認知症高齢者への環境支援指針（PEAP）を用いた施設環境づくり実践ハンドブック Part1～4（日本社会事業大学児玉研究室）」を用いてきた。昨年の研究で、近年の研究や実践の蓄積を反映させ内容の充実を図った。

本年は、実践マニュアルに、このプログラムを用いて環境づくりを行った多様な実践事例を8ケース取り上げて、具体的な取り組みのプロセスや効果を示した。施設環境づくりの全国的

表2 認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアルの概要

目的と進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設を取り巻く動向と施設環境づくりの方向性</li> <li>・認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム</li> <li>・施設環境づくりの組織づくり</li> </ul>		
環境づくりの 実践手法編	ステップ	プロセス	ツール
	STEP1 ケアと環境への気づきを高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアと環境を学ぶ</li> <li>・自施設の環境について意見交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者への環境支援指針 (PEAP 日本版3)</li> </ul>
	STEP2 環境課題の把握と目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の環境を評価</li> <li>・環境の課題の整理</li> <li>・環境づくりの目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャプション評価法</li> <li>・キャプションカードの整理シート</li> <li>・目標設定シート</li> </ul>
	STEP3 環境づくりの計画立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らし方のイメージを描く</li> <li>・改善案の創出、整理、選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らし方シミュレーションシート</li> <li>・アイデア出しシート</li> </ul>
	STEP4 環境づくりの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善案の実施条件の検討</li> <li>・環境づくりを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施条件の検討シート</li> <li>・環境づくり実践事例 (CD、HP)</li> </ul>
	STEP5 環境づくりを活かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境を暮らしに活かす</li> <li>・新しい環境をケアプランに活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境づくりの活用状況把握シート</li> </ul>
	STEP6 環境づくりを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境づくりの実践の振り返り</li> <li>・環境づくり効果の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境づくり振り返りシート</li> </ul>
実践事例編	CASE1	・特別養護老人ホームにおける施設環境づくり	
	CASE2	・従来型特養におけるユニットケアにふさわしい環境づくり	
	CASE3	・ショートステイにおける環境づくり	
	CASE4	・グループホームにおける環境づくり	
	CASE5	・認知症対応型デイサービスにおける環境づくり	
	CASE6	・老健施設における環境づくり	
	CASE7	・老人性認知症疾患治療病棟における環境づくり	
	CASE8	・重度認知症高齢者への環境づくり	
環境づくり成功 へのキーポ イント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設環境づくり支援プログラムの多様な展開</li> <li>・施設環境づくりの取り組みに活用できる資源</li> <li>・施設環境づくり成功へのキーポイント</li> </ul>		

な普及を図る上で、誰でもが入手しやすい実践マニュアルへの要請が高いため、「PEAP にもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル<sup>1)</sup>」として刊行した。

この内容は、表2に示すように、①目的と進め方、②6ステップの環境づくりの具体的な手法を示す実践手法、③このプログラムの多様な施設で実践事例、④環境づくり成功へのキーポイントから構成される。現場の方々が、この実践マニュアルにより自分たちで環境づくりに取り組めるように、大変分かりやすく具体的に書かれている。また、この内容に基づき介護雑誌に連載<sup>11)～22)</sup>を行い、普及に努めた。

## (2) 認知症高齢者に配慮した施設環境づくり実践マニュアル (CD 日本語版・英語版)

施設環境づくりに重要な色彩や質感などが書籍のモノクロ写真では不十分である点、現場の



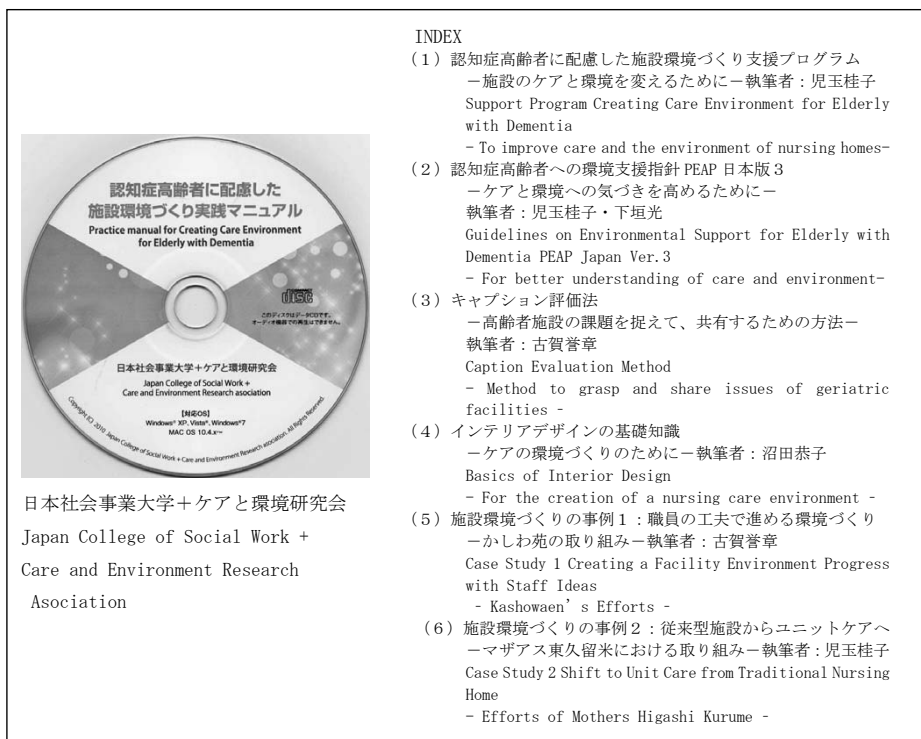


図5 認知症高齢者に配慮した施設環境づくり実践マニュアル (CD 日本語版・英語版)

- INDEX
- (1) 認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム
    - 施設のケアと環境を変えるために- 執筆者：児玉桂子  
Support Program Creating Care Environment for Elderly with Dementia
    - To improve care and the environment of nursing homes-
  - (2) 認知症高齢者への環境支援指針 PEAP 日本版 3
    - ケアと環境への気づきを高めるために-  
執筆者：児玉桂子・下垣光  
Guidelines on Environmental Support for Elderly with Dementia PEAP Japan Ver. 3
    - For better understanding of care and environment-
  - (3) キャプション評価法
    - 高齢者施設の課題を捉えて、共有するための方法-  
執筆者：古賀誉章  
Caption Evaluation Method
    - Method to grasp and share issues of geriatric facilities -
  - (4) インテリアデザインの基礎知識
    - ケアの環境づくりのために- 執筆者：沼田恭子  
Basics of Interior Design
    - For the creation of a nursing care environment -
  - (5) 施設環境づくりの事例1：職員の工夫で進める環境づくり
    - かしわ苑の取り組み- 執筆者：古賀誉章  
Case Study 1 Creating a Facility Environment Progress with Staff Ideas
    - Kashowaen' s Efforts -
  - (6) 施設環境づくりの事例2：従来型施設からユニットケアへ
    - マザース東久留米における取り組み- 執筆者：児玉桂子  
Case Study 2 Shift to Unit Care from Traditional Nursing Home
    - Efforts of Mothers Higashi Kurume -

グループ勉強会や個人の自習に画像とナレーション付き教材が求められている点、東南アジアなど海外向けに英語版が必要、といった要請を考慮して「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり実践マニュアル (CD 日本語版・英語版)<sup>41)</sup>」を作成した。

図5に示すようにこのCDは、①施設環境づくり支援プログラムの基本的な考え方、②認知症ケアと環境の基本的な関わりを示す「認知症高齢者への環境支援指針 (PEAP 日本版3)」、③施設の課題をとらえて共有するための方法であるキャプション評価法、④色彩や家具などケア環境のインテリアの基本、⑤職員の工夫で進められた施設環境づくりの実践事例、⑥従来型施設でユニットケアに対応した環境づくりに取り組んだ実践事例、から構成される。

施設職員がパソコンで自習することも、パワーポイントで映写して多人数で勉強会を行う際にも対応できる仕様となっている。

### 3. 開発した教材を用いた環境づくり教育・研修プログラムとその評価

#### (1) 「施設環境づくり支援プログラム」による研修・教育プログラムの概要

環境づくり研修は、入門研修 (講義：1～2時間)、基礎研修 (講義+演習、5～10時間)、リーダー養成研修 (講義+演習+環境づくり実践、24～30時間、実践時間は含まない) が基本形である。本年度は表3に示す研修・教育プログラムを実施した。これらの研修や教育プログラムでは、「PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル」の内容



がテキストとして使用され、CD版にある映像教材が使用された。

#### ①現場向け研修プログラム（積み上げ式・地域型）

研修講師および受講者共に一定のエリア内において、月一回程度の研修を積み上げていく形式である。本年度は、A区介護人材育成・研修センターの研修の一環に位置づけて、A区内の事業者を対象に実施した。基礎研修を終了した特養やデイサービスの職員がリーダー養成研修に参加した。リーダー養成研修では、6回の研修期間中に、各自の課題に沿って自施設で環境づくりを実践して、最終回に「環境づくり振り返りシート」を用いて振り返りを行った。3か月後にフォローアップ研修を実施して、再度「環境づくり振り返りシート」により、環境づくりの利用者への影響を評価すると共に、環境づくりの定着を図った。「環境づくり振り返りシート」の分析により、研修参加者のケアと環境への視点が広がることが確認できた。

#### ②現場向け研修プログラム（広域型）

昨年度の熊本での研修に続き本年は、上田市において信越ブロックの認知症介護専門家と関連事業者の連絡協議会の協力を得て、研修講師および受講者共に広域から参加する広域型研修を実施した。入門研修を実施した後に基礎研修を実施したが、初回研修参加者が3割程度に留まって、研修対象を絞ることが出来なかった。

#### ③教育プログラム

教育プログラムとして、3種類のプログラムを実施した。「実務者向け教育プログラム」は、専門職大学院の公開講座として2日間集中として実施して、施設環境づくりプログラムのステップ1～6、および実践事例について取り上げた。

「学部生向け教育プログラム（中期集中）」は、施設環境づくりプログラムのステップ1～6、および実践事例やケア環境のインテリア等幅広く取り上げた。

「学部生向け教育プログラム（実習型）」は、環境づくりプログラムの学習はステップ1～2が中心であるが、実際の施設環境評価を実施して、その結果を現場にフィードバックする双方向型のプログラムとなっている。

### **(2)「施設環境づくり支援プログラム」による研修・教育プログラムへの意向と評価**

施設環境づくり研修や教育プログラムへの理解を表4にみると、現場職員と学生共に9割を超える高い達成状況を示している。ただし、広域型研修の参加者は、職場にうまく伝えられると回答したものは6割強に留まった。この研修では、初回参加者と継続した参加者が混在したことが一因と考えられる。

何らかの環境づくりの経験があると回答した参加者は、9割～5割強いることが示され、以前に比べると大きく増加していると言える（表4、表5）。また、実務者向け教育プログラム参加者に対して研修目的を尋ねたところ、2011年参加者は「自施設で取り組みたい」および「自施設で取り組んでいるので」を合計すると7割近くの高い水準に達した（表5）。近年の環境づくり研修参加者には、このようにある程度の経験を持ち、現場に活かせる充実した研修や教育プログラムを望む層が増加していることが示された。

環境づくりの障害となる項目として、「職員の理解が得にくい」、「業務の負担が増える」、「費用の捻出」が上位に挙げられた（表4、表5）。環境づくりを実践するためには、施設の管理

表3 施設環境づくり支援プログラムによる研修・教育プログラム

		対象者	期間	プログラムの概要 (主催者)	研修後の評価
現場向け研修 プログラム (地域型) (積み上げ型)	基礎研修	特養、グループホーム、デイサービス等の職員26名	2回開催 2010.5.10 2010.7.12 180分×2=360分	・STEP1～STEP3および環境づくり事例の検討 ・自施設のキャプション評価カードに基づき、環境づくりのアイデア出しの演習。 (練馬人材育成・研修センター以下同様)	各回終了後理解度・達成度に関する評価実施
	環境づくりリーダー養成研修	特養、グループホーム、デイサービス等の職員18名	6回開催 2010.9.7～2011.2.18 240分×6=1440分	・STEP1～STEP6および事例の検討 ・環境づくり実施施設の見学 ・各自が自施設で環境づくりを実践して、「環境づくり振り返りシート」で評価。	各回終了後理解度・達成度に関する評価実施
	環境づくりフォローアップ研修	リーダー研修参加者のうち13名	1回開催 2011.7.13 240分	・リーダー研修で実施した自施設の環境づくりについて、3ヶ月後に「振り返りシート」を用いてPEAPの視点、「行動観察シート」により高齢者への影響を評価。	リーダー養成終了後と今回の振り返りシートの分析
現場向け研修 プログラム (広域型)	入門研修	特養、グループホーム、デイサービス等の職員45名 (認知症介護指導者含む)	1回開催 2011.1.23 180分	・STEP1およびSTEP2の一部および事例 ・キャプション評価法について行い、次回までに各自の施設で実施する (甲信越ブロック認知症介護指導者・上小宅老所グループホーム連絡協議会合同研修)	研修の理解や環境づくりの経験等に関するアンケート実施
	基礎研修	前回と同様の参加者50名 (ただし継続参加は3割程度)	1回開催 2011.10.29 360分	・STEP1～STEP3および環境づくり事例の検討 ・参加者のキャプションカードにより、環境づくりのアイデア出しまで行う ・現地のメンバー3名がファシリテーター (複数事業所連携事業)	研修の理解や環境づくりの経験等に関するアンケート実施
教育プログラム	実務者向け教育プログラム(短期集中型)	専門職大学院および外部の介護施設職員35名	2日間集中 2010.7.20 2010.7.21 360分×2=720分	・STEP1～STEP6および事例の検討 ・用意したキャプションカードにより、環境づくりの演習。 ・各グループの発表や実践例に基づき事例検討	環境づくりへの関心や参加動機等アンケート実施
	学部生向け教育プログラム(中期集中型)	社会福祉学部生21名	8日間集中 2010.11.11～2011.1.13 180分×8回=1440分	・STEP1～STEP6および事例の検討 ・ケア環境のインテリア ・用意したキャプションカードにより、環境づくりの演習。 ・各グループの発表や実践例に基づき事例検討	・環境づくりへの関心や経験に関する事前評価 ・理解度や応用力に関する事後評価
	学部生向け教育プログラム(実習型)	社会福祉学部Aグループ Bグループ 各25名	2010 および2011 Aグループ: 180分×6=1080分 Bグループ: 90分×8=720分	・STEP1～STEP2の学習 ・特別養護老人ホームでキャプション評価法による環境アセスメント ・キャプションカードの整理と環境づくり目標を作成 ・プレゼンテーション準備 ・施設で発表と意見交換	・理解度や応用力に関する事後評価 (成果物の評価) ・キャプションカード、整理シート、目標シート

者をはじめ周囲の職員の理解が必要である。A区のリーダー研修では、研修センターから施設に対して協力依頼と環境づくりの手法や効果に関する簡単な資料を送り、施設管理者や職員の

協力を促した。こうした配慮が、他の研修においても有効と思われる。

施設参加者の所属は、特養などの施設、グループホーム、デイサービス、有料老人ホームや高齢者住宅等へと環境づくりへのニーズが広がっている。多様な種類の施設が集まって研修を行うことが一般的であるが、それぞれの現状のニーズに対応しつつ、個別性と共通性の双方に着目した研修が今後大切になってくる。

表4 環境づくり研修・教育プログラムへの評価と意向

%

		現場向け研修（広域型）		学部生向け教育プログラム（実習型）	
		入門研修	基礎研修	Aグループ	Bグループ
理解と活用	PEAPを理解できた	91.5	91.7	100.0	95.6
	環境づくりをイメージすることが出来た	100.0	97.2	100.0	91.3
	ケアに環境を活かす視点が身に付いた	—	—	95.3	95.6
	環境づくりの手法が現場に役立つ	94.5	94.5	100.0	100.0
	研修内容を職場に伝えらえる1)	62.8	63.9	80.9	78.3
環境づくりの障害	大きな障害はない	11.1	8.3	4.8	0.0
	管理職の理解が得にくい	13.9	19.4	19.0	34.8
	職員の理解が得にくい	33.3	22.2	47.6	17.4
	業務の負担が増える	47.2	11.1	23.8	21.7
	費用の捻出	55.6	38.9	57.1	82.6
	施設が老朽化	11.1	13.9	57.1	13.0
	施設が狭い	5.6	11.1	47.6	30.4
	取り組み方が分からない	5.6	11.1	14.3	4.3
	環境づくりに関する情報不足	30.6	25.0	47.6	30.4
利用者への影響や重度化	8.3	19.4	19.0	13.0	
環境づくりの経験がある（些細なものでも）		90.6	55.9	施設実習・アルバイト経験	
回答者の所属	特別養護老人ホーム	22.9	31.4	95.2	78.3
	老人保健施設	11.4	11.4	52.4	0.0
	デイサービス	14.3	11.4	0.0	0.0
	グループホーム	22.9	11.4	14.3	13.0
	その他	28.6	34.3	14.3	17.3
回答者の職種	介護スタッフ	23.8	45.9		
	相談員	19.0	16.2		
	看護師	2.4	0.0		
	施設長・課長など管理職	23.8	18.9		
	介護支援専門員	21.4	18.9		
	その他	9.5	0.0		
回答者数		36名	36名	21名	23名

1) 学生の場合には、将来就職したとき

表5 実務者向け教育プログラム（短期集中）受講者の意向

%

		2010年	2011年
研修目的	自分の施設で取り組みたい	37.0	58.1
	自分の施設で現在取り組んでいる	11.1	9.7
	他施設の取り組みを知りたい	14.8	22.6
	環境づくりの手法を知りたい	63.0	61.3
	施設環境に興味がある	55.6	41.9
	情報収集・勉強のため	51.9	64.5
環境づくりの障害	大きな障害はない	0.0	
	管理職の理解が得にくい	25.9	
	職員の理解が得にくい	51.9	
	業務の負担が増える	55.6	
	費用の捻出	40.7	
	施設が老朽化	14.8	
	施設が狭い	18.5	
	取り組み方が分からない	18.5	
	環境づくりに関する情報不足	44.4	
	利用者への影響や重度化	18.5	
環境づくりの経験がある（些細なものでも）		66.7	63.3
回答者の所属 1)	特別養護老人ホーム	44.4	25.8
	老人保健施設	7.4	12.9
	デイサービス		12.9
	グループホーム	7.4	6.5
	その他	40.7	25.8 2)
回答者の職種	介護スタッフ	59.3	45.2
	相談員	29.6	6.5
	看護師	3.7	9.7
	施設長・課長など管理職	18.5	19.4
	介護支援専門員	14.8	16.1
	その他	14.8	19.4
回答者数		27名	31名

1) 実習・アルバイト含む 2) 有料老人ホームと高齢者住宅

## 4. おわりに

### (1) 施設環境づくり支援プログラムがもたらす幅広い効果

施設環境づくり支援プログラムがもたらす幅広い効果について、本年度および昨年度の研究を踏まえて図6にまとめた（図中の○は高齢者、点線は職員、実線は環境を示す）。

高齢者の暮らしやケアのニーズに対して、ケアと環境の関わりについてステップ1・2において学ぶことにより、職員はケアと環境への気づきを高める。さらに、ステップ3・4において、施設の物理的・社会的・運営的環境を変えることにより、ケアと環境の関わり的重要性を強く学び、環境づくりのスキルを習得する。ステップ5において、新たな環境を取り入れた暮らしやケアが実践され、高齢者の暮らしやケアが変わっていく。これにより、職員は環境を活かしたケアスキルを習得すると共に、高齢者のポジティブな変化を経験して仕事へのモチベーションの向上につながる。最終的に、高齢者や職員の環境への満足、ストレス軽減、高齢者がいきいき生活するなど行動の改善がもたらされる。

これまでの実践研究から以上のような幅広い効果の構造が把握できた。しかし、この効果には施設によりばらつきも生じている。より効果的な環境づくり支援プログラムとするために、プログラム評価法の視点からの検討を進めている。これについては、別の論文<sup>9)</sup>に譲る。

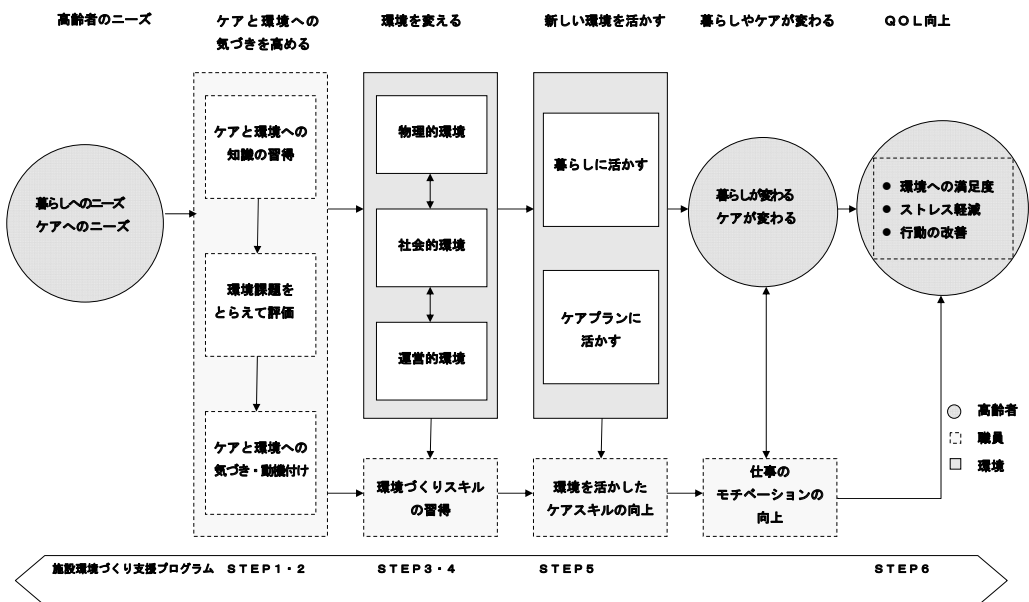


図6 施設環境づくり支援プログラムがもたらす幅広い効果

## (2)「施設環境づくり支援プログラム」による研修・実践の普及

図7は広域および拠点地域での環境づくり実践と研修の普及状況を表している。実践マニュアル（書籍・CD）や環境づくりウェブсайтにより、誰でもが環境づくりにアクセスして一定の成果を挙げることが可能となっている。また、前年度より進めてきた環境づくり支援専門家組織も日本全国をカバーして、その数はまだ少ないが身近な地域で相談が可能となっている。

一方、A区内においては、社会福祉事業団に所属する4特養において施設環境づくりの研修と実践が行われた。その後、同じ事業団が運営をする介護人材育成・研修センターにおいて、区内の事業所を対象に環境づくり研修が実施され、先行している事業団の特養が拠点となって見学などの機会を提供している。事業団の管轄下のデイサービスセンター等からも、研修センターの環境づくり研修への参加が行われ、環境づくりの人材の養成が広くなされている。このような環境づくり研修と実践の拠点を地域の中に構築することは、地域の中で認知症高齢者にふさわしいケアと環境を普及するうえで強力な方策である。

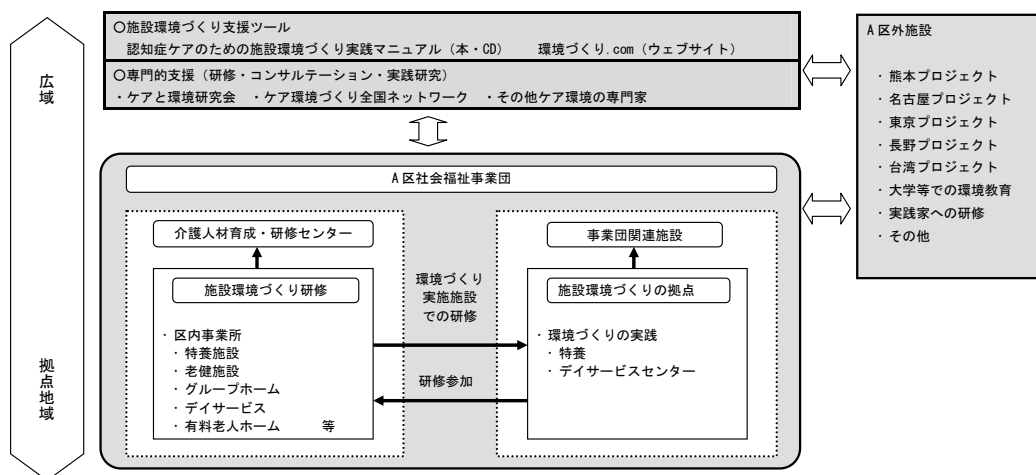


図7 施設環境づくり研修・実践の広がり

## Ⅲ. 主な成果の発表

本研究に基づき発表した主な成果は以下のようである。

### 【著書】

- 1) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・下垣光編：PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル、中央法規出版、1-174,2010.8

### 【論文】

- 2) 沼田恭子・児玉桂子・古賀誉章・大久保陽子：PEAPの視点にもとづく施設環境づくりでケアと暮らしを変えるー練馬区立富士見台特別養護老人ホームにおける実践ー、地域ケア

リング、Vol.13,No.1,18-31、2011.1

- 3) 児玉桂子・大島千帆：認知症高齢者の暮らしを支える住まいの工夫、地域ケアリング、Vol.13,No.1,6-16、2011.1
- 4) 古賀 誉章：施設環境づくりプログラムの多様な展開、地域ケアリング、Vol.18,No.8,13-22,2011

#### 【学会発表】

- 5) 児玉桂子・森一彦・曾思喩・古賀誉章：「施設環境づくり支援プログラムにもとづく入門研修の台湾への適用の試みー研修参加者への事後アンケートの分析を中心として」、第11回日本認知症ケア学会、2010.10
- 6) 沼田恭子・児玉桂子・古賀誉章・大久保陽子：「施設環境づくり支援プログラムによる従来型特別養護老人ホームにおける実践の試みー認知症高齢者への環境支援指針 PEAP 日本版3の視点を中心として」、第11回日本認知症ケア学会、2010.10
- 7) 杉山匡・児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・大久保陽子：施設環境づくり支援プログラムによる環境づくりの効果（1）ー職員のストレス反応の影響および一般勤労成人との比較、第12回日本認知症ケア学会、2011.10
- 8) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・大久保陽子・深谷直弘・松尾浩一郎：施設環境づくり支援プログラムによる環境づくりの効果（2）ー職員の環境満足度および認知症高齢者の行動への影響、第12回日本認知症ケア学会、2011.10
- 9) 廣瀬圭子・児玉桂子・大島千帆：認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラムへのプログラム評価法の適用ーサービス利用計画・組織計画・援助要素の作成を通じた効果の実践モデル構築ー、日本社会福祉学会第5回秋季大会、2011

#### 【雑誌の連載等】

- 10) 児玉桂子：認知症ケアを支える施設環境づくりの手法と実践、WAM、26-27、2010.10
- 11) 児玉桂子：認知症の人の暮らしを支える環境づくり①ー職員の気づきを高める施設環境づくりとは、おはよう 21、66-67,2010.10
- 12) 児玉桂子：認知症の人の暮らしを支える環境づくり②ー「認知症の人のための環境支援指針（PEAP）」とは、おはよう 21、66-67,2010.11
- 13) 古賀誉章：認知症の人の暮らしを支える環境づくり③ー施設環境を再点検！気づきを共有できるキャプション評価法、おはよう 21、66-67,2010.12
- 14) 古賀誉章・沼田恭子：認知症の人の暮らしを支える環境づくり④ー環境づくりの目標を定める、おはよう 21、68-69,2011.1
- 15) 古賀誉章・沼田恭子：認知症の人の暮らしを支える環境づくり⑤ー環境づくりの計画を立て実行する、おはよう 21、68-69,2011.2
- 16) 北新宿特別養護老人ホームかしわ苑：認知症の人の暮らしを支える環境づくり⑥ー職員の工夫で進めた環境づくりーかしわ苑の実践①、おはよう 21、68-69,2011.3
- 17) 北新宿特別養護老人ホームかしわ苑：認知症の人の暮らしを支える環境づくり⑦ー小さな環境づくりで大きな効果ーかしわ苑の実践②、おはよう 21、66-67,2011.4



- 18) 特別養護老人ホームマザアス東久留米：認知症の人の暮らしを支える環境づくり⑧ーユニットケアへの取り組みと「環境づくりプロジェクト」、おはよう 21、66-67,2011.5
- 19) 特別養護老人ホームマザアス東久留米：認知症の人の暮らしを支える環境づくり⑨ーリビング改修と環境をケアプランに活かす、おはよう 21、66-67,2011.6
- 20) 満田賢一郎：認知症の人の暮らしを支える環境づくり⑩ー個室ユニット化を目指した既存施設での環境づくり、おはよう 21、66-67,2011.7
- 21) 児玉桂子：認知症の人の暮らしを支える環境づくり⑪ー施設環境づくりのための組織づくり、参加と継続を目指して、おはよう 21、66-67,2011.8
- 22) 児玉桂子：認知症の人の暮らしを支える環境づくり 最終回ー施設環境づくりがもたらす大きな効果、環境・ケア・暮らしを変える、おはよう 21、66-67,2011.9

#### 【海外での講演・研修活動】

- 23) 児玉桂子・古賀誉章他：美和学術院「高齢者ケアを助ける施設環境づくり」、台湾屏東市、2010.7
- 24) 児玉桂子・古賀誉章他：財団法人嘉義基督教医院附属ナーシングホーム、「施設環境づくりの実践への支援」、台湾嘉義市、2010.7
- 25) 曾思瑜・浜崎裕子他：「福岡における日ー台ケア環境づくり交流会」、久留米大学浜崎研究室、福岡市、2011.8.2
- 26) 曾思瑜・高橋恵子・児玉桂子他：「熊本における日ー台ケア環境づくり交流会」、グループホームせせらぎ他、熊本市、2011.8.3~5
- 27) 児玉桂子・森一彦・曾思瑜他：日本ー台湾「高齢者ケア環境セミナー」、日本建築学会、2011.8.11
- 28) 曾思瑜他：「台湾嘉義キリスト教病院附属ナーシングホームにおける環境づくり研修・実践」、2009.9~2011.3（継続中）
- 29) 曾思瑜他：「台湾嘉義聖馬病院附属ナーシングホームにおける環境づくり研修・実践」、2010.5~2011.3（継続中）

#### 【国内での講演・研修活動】

- 30) 満田賢一郎他：「特別養護老人ホーム白川の里 認知症ケアを助ける施設環境づくり研修・実践」、2009.12~2011.3（継続中）
- 31) 高橋恵子他：「小規模多機能施設ほたる・グループホームせせらぎでの環境づくり研修・実践」、2009.12~2011.3（継続中）
- 32) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子：練馬介護人材育成・研修センター（練馬区社会福祉事業団）「認知症ケアを助ける施設環境づくり基礎研修（合計2回）」、2010.5~7
- 33) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・鈴木みな子：練馬介護人材育成・研修センター（練馬区社会福祉事業団）「認知症ケアを助ける施設環境づくり応用研修（合計6回）」、2010.9~2011.2
- 34) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・鈴木みな子：練馬介護人材育成・研修センター（練馬区社会福祉事業団）「認知症ケアを助ける施設環境づくりフォローアップ研修、2011.7.13

- 35) 児玉桂子他：熊本県益城郡宅老所・グループホーム・施設部会合同研修会＋日本社会事  
大学共同研究プロジェクト、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり研修」2009.12～  
2011.3
- 36) 児玉桂子・古賀誉章他：練馬区社会福祉事業団＋日本社会事業大学共同研究プロジェクト、  
「大泉特別養護老人ホーム施設環境づくり研修・実践（合計20回）」、2009.6～2011.3（継  
続中）
- 37) 児玉桂子・古賀誉章他：練馬区社会福祉事業団＋日本社会事業大学共同研究プロジェクト  
「関町特別養護老人ホーム施設環境づくり研修・実践（合計20回）」、2009.5～2011.3（継  
続中）
- 38) 沼田恭子・大久保陽子他：練馬区社会福祉事業団＋日本社会事業大学共同研究プロジェクト、  
「富士見台特別養護老人ホーム施設環境づくり研修・実践（合計20回）」、2009.6～2011.3  
（継続中）
- 39) 沼田恭子・大久保陽子他：練馬区社会福祉事業団＋日本社会事業大学共同研究プロジェク  
ト「田柄特別養護老人ホーム施設環境づくり研修・実践（合計20回）」、2009.5～2011.3（継  
続中）
- 40) 児玉桂子：甲信越ブロック認知症介護指導者・上小宅老所グループホーム連絡協議会  
合同研修「認知症高齢者のための環境支援に関する研修会（2回）」、2011.1.23 および  
2011.10.29

#### 【その他】

- 41) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・下垣光：認知症高齢者に配慮した施設環境づくり実践マ  
ニュアル（CD）、日本社会事業大学＋ケアと環境研究会、2011.3

#### 【受賞】

「中華民国建築学会賞」翁金程・曾思瑜：PEAP 日本版3による嘉義キリスト教病院付属ナー  
シングホームにおける環境づくり、2011.5  
「熊本県施設研究発表会銀賞」満田賢一郎ほか：従来型施設における環境づくりと高齢者  
への影響

注) 執筆者以外の共同研究者と研究協力者は下記の通りである。

森一彦（大阪市立大学）、浜崎裕子（久留米大学）、加藤悠介（豊田工業高等専門学校）、  
杉山匡（ストレス科学研究所）、曾思瑜（台湾国立雲林科技大学）、大島巖（日本社会事業  
大学）、大久保陽子（ケアと環境研究会）、鈴子みな子（浦和大学）、廣瀬圭子（日本社会  
事業大学）、満田賢一郎（特別養護老人ホーム白川の里）、高橋恵子（グループホームせせ  
らぎ）